

News IR

I R (Institutional Research/インスティテューショナル・リサーチ) は、大学組織において何らかの決定を行う際に、それをサポートするための情報収集と分析を意味します。

二松学舎大学では、大学の機関活動に関するデータ収集・分析を行い、大学がどのような課題を抱えているのか、その課題はどのような要因と関連しているのか、今後どのような意思決定を取り得るのか等を客観的に把握し、政策形成・意思決定を支援するための活動を行っています。

2021年度 2号 (NO.12)

Contents

- ◆ 「学生の実態・満足度調査」の結果概要 1
- ◆ 二松学舎憲章 4

◆ 「学生の実態・満足度調査」の結果概要

2021年11月29日（月）～2022年1月13日（木）にかけて、本学の1年次・3年次・4年次生を対象として、学生の実態・満足度調査を実施しました。

調査は、大学生活全般に関する56問（5段階の選択回答方式等）と2問（自由記述方式）で答えてもらいました。

▶本調査の実施目的

- ①学生の本学の「学び」に対する満足度を定量的に把握すること。
- ②他大学と比較することで、本学の特徴を定量的かつ可視化して認識すること。

調査回答数は、下表のとおりです。

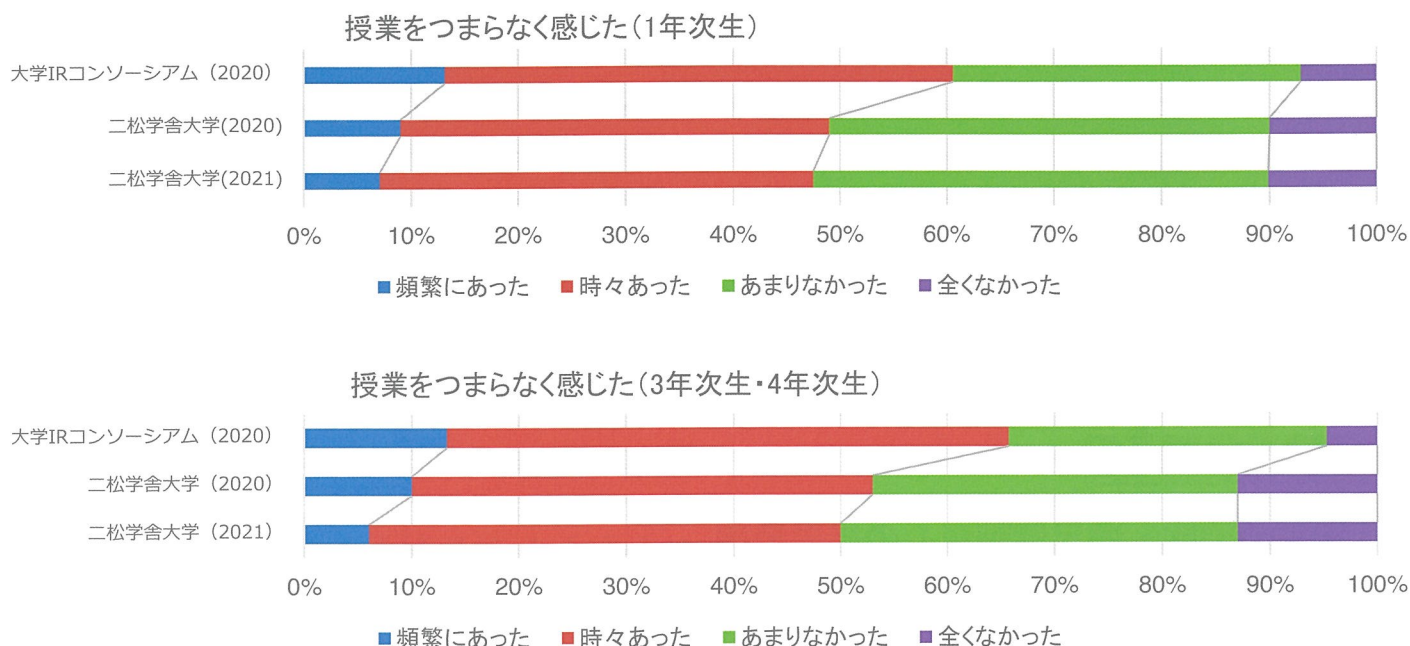
▼ 回答数

	文学部			国際政治経済学部		合計
	国文学科	中国文学科	都市文化デザイン学科	国際政治経済学科	国際経営学科	
1年	118	27	13	56	20	234 (32.5%)
3年	71	28	9	28	9	145 (20.1%)
4年	57	22	10	15	7	111 (13.9%)
全体	246	77	32	99	36	490(21.9%)

(回答率: 回答数/在籍者数)

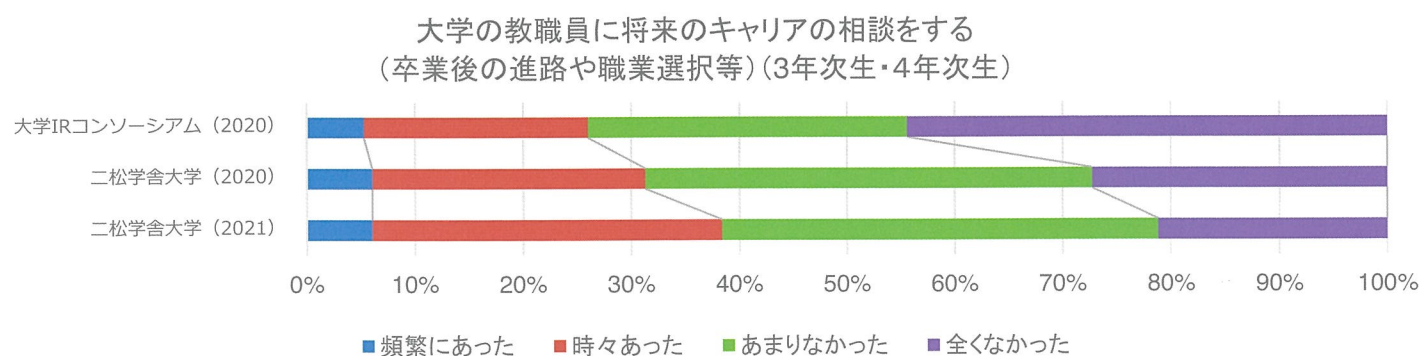
●ベンチマーク（大学IRコンソーシアム）校と比較した本学の特徴

▼ベンチマーク（大学IRコンソーシアム）校と比べ、授業がつまらないと感じる割合が低い（授業が面白いと感じる割合が高い）結果となりました。



- コロナ禍においても、他大学と比較し、魅力的な授業が行えていることが確認できました。
- 本学では、教育内容・方法等の研究や研修を定期的に行い、質の高い授業を目指しています。（2021年度はFD講演会や他の教員間の授業方法の共有などの取り組みを実施しました。）
- コロナ禍においても、2021年度は前年度より多くの対面授業を開講する施策を実行しました。

▼ベンチマーク（大学IRコンソーシアム）校と比べ大学の教職員に将来のキャリアの相談をする学生の割合が多い傾向が明らかになりました。



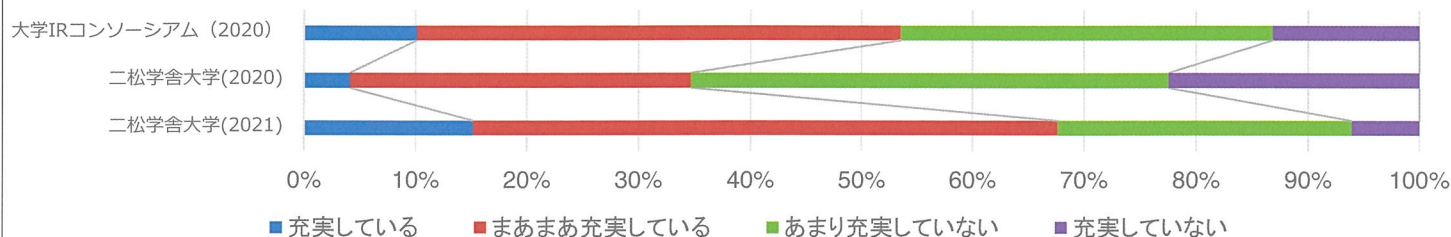
- コロナ禍においても、就職支援課がオンラインで3年生全員と面談する機会を設けています。
- 就職活動に関するスケジュールや二松学舎大学の支援内容などをWebexを用いて会議形式で情報提供を行いました。
- 人気企業に内定した学生の活動報告会を開催し、就職活動や学生生活から成長につながる気づきを得る機会を設け、多くの学生の参加がありました。

※大学IRコンソーシアムの集計結果を引用しています。

大学IRコンソーシアムは、全国の国公私立61大学が加盟（2021年12月3日現在）しており、学生調査分析等を行っています。本学も加入を検討しています。

▼ベンチマーク（大学IRコンソーシアム）校と比べ2020年度は学生生活が充実していると回答する割合が低下しましたが、2021年度は回復する結果となりました。

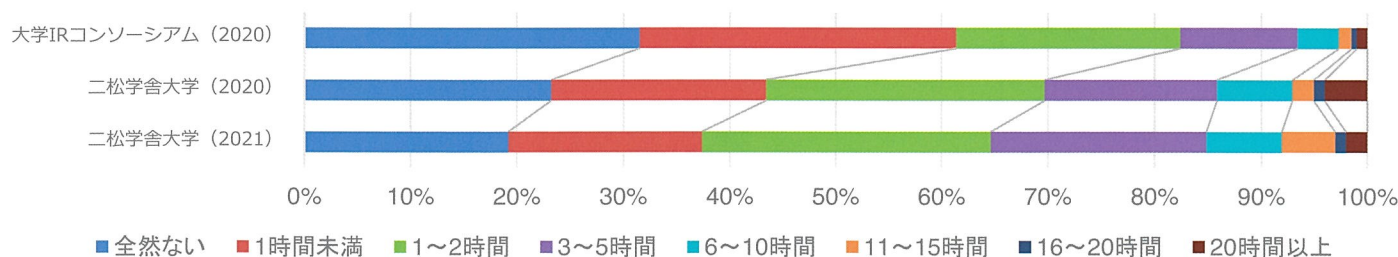
学生生活は充実していますか（1年次生）



- ベンチマーク校は地方大学も含まれた平均のため、コロナ禍では、単純な比較はできませんが、2020年度の1年生を対象とした調査では充実度が低下しました。2021年度は対面を基本とした授業運営方針のもと、教職員は通常勤務を行い、学生生活を充実させるためのサポートを継続しました。
- 3・4年次生の充実度は2020年、2021年ともに例年並みとなりました。

▼ベンチマーク（大学IRコンソーシアム）校と比べ授業とは関係のない勉強をする傾向が確認できました。

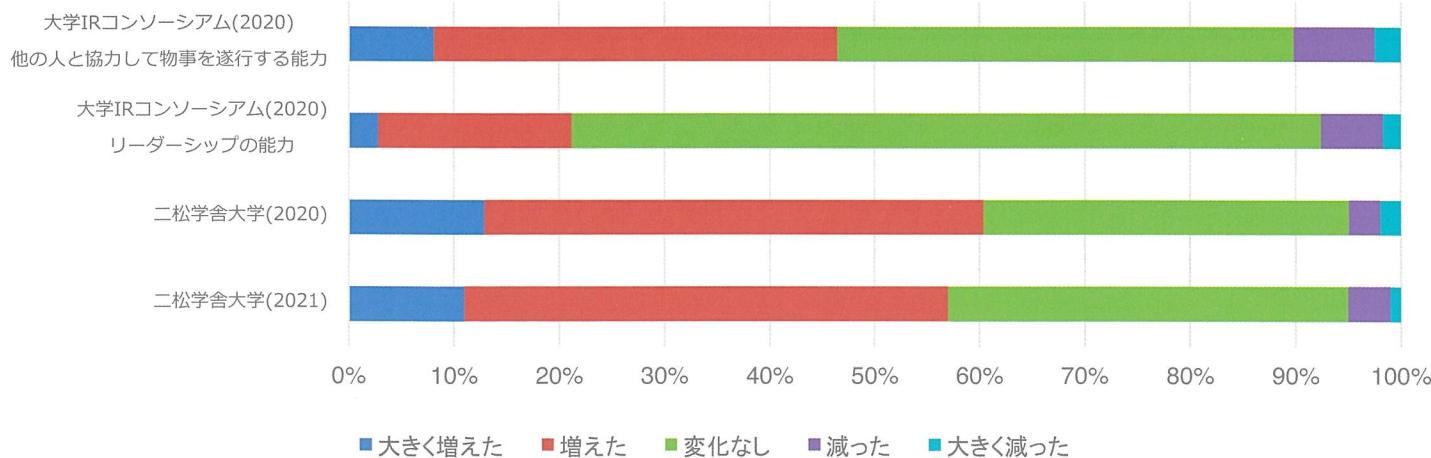
この1年間（授業期間中）の1週間あたり平均の活動時間について授業とは関係のない勉強をする（3年次生・4年次生）



- 本学では充実した資格取得支援制度や、多くの文化施設が徒歩圏にある立地、公共交通機関も整った環境のため、様々な分野で目標を設定し学習しやすい環境にあります。

▼ベンチマーク（大学IRコンソーシアム）校と比べ、他者と協働する能力やリーダーシップの向上を感じている学生の割合が高い結果となりました。

チームワーク・リーダーシップ（他者と協調・協同して行動できる。また、他者に方向性を示し、目標の実現のために動員できる）（3年次生）



- 質問構成が異なるため、単純な比較はできませんが、二松学舎大学の学生は、チームワーク力やリーダーシップ力の向上を感じている学生が多い傾向が確認できました。
- 本学では、演習授業やゼミナール活動で協働的学修を経験する環境を整えています。

●施設・設備や大学の教育課程・内容について改善して欲しいこと

コロナ禍で対面授業とオンライン授業を併用して授業を行った2021年度にどのような改善要望があるか自由記述の形式で調査しました。

アンケート回答の文字の頻出傾向度合を分析し、全体としてどのような意見が多いか調査しました。

具体的内容

用語	頻度
授業	122
オンライン	48
時間	37
対面	36
履修	34
学生	33
科目	32
大学	29
先生	20

- 『授業』に関する要望が多く出されました。主に『対面授業』や『オンライン授業』に関する記述が中心で、「オンライン授業をこれからも併用してほしい。」「対面授業を増やしてほしい」などの意見がありました。
- 『時間』に関する記述では、「休憩時間を増やしてほしい」「図書館の開館時間や食堂の営業時間を増やしてほしい」などの意見がありました。
- 『履修』に関する記述では、「授業や履修登録に関わらず学ぶことのできる動画コンテンツがほしい」「履修登録をもっとわかりやすくしてほしい・何を履修したらいいかわからない」などの意見がありました。
- 『学生』に関する記述では、コロナ禍での学生へのサポートに関する多様な意見がありました。
- 『科目』に関する記述では、「必修科目が多く、取りたい授業が取れない」などの意見がありました。
- 『大学』に関する記述では、トイレの設備に関する内容やロッカー設置に関する意見がありました。

※記載されていた意見については、関係部署と共有しました。

【二松学舎憲章】

＜建学の精神の発揚＞

- ・教職員は、建学の精神「東洋の精神による人格の陶冶」、「己ヲ修メ人ヲ治メ一世ニ有用ナル人物ヲ養成ス」の発揚に努めます。

＜教育・研究の目標達成＞

- ・人材育成のため、自らその体現者となるべく、自己研鑽に努めます。
- ・法令及び学則を順守し、道徳心と倫理観を持ち、職務に当たります。
- ・現状を把握し、自ら課題を見つけ、教育・研究の質の向上に努めます。

＜学生生徒支援＞

- ・教職員一人一人が、学生生徒の人格と人権を尊重します。
- ・教育・研究の充実に常に努め、教育・研究環境の整備を行い、学生生徒の満足度向上を目指します。

＜社会貢献＞

- ・教育・研究活動を通じて、地域社会への貢献に努めます。
- ・社会情勢に常に目を向け、国際社会と世界平和に寄与します。

【発行主体】

二松学舎大学

大学改革推進部 I R推進室

〒102-8336 東京都千代田区三番町6番地16

TEL (03)3261-1285

FAX (03)3261-7413

[E-mail] gakumu@nishogakusha-u.ac.jp

2022年3月31日発行